

学術事業報告

学発番号：学13-054

研修会名：病理分野研修会

日 時： 平成25年12月21日(土)14:00～17:00

場 所： 京都府立医科大学 基礎医学学舎 第2講義室

主 題1： 病理標本作製の自動化～歴史と未来～

講 師1： 恩田 和人、野島 久美子(サクラファインテックジャパン株式会社)

主 題2： 迅速固定包埋装置「ティッシュテック・エクスプレス」の使用経験

講 師2： 白井 孝夫(京都大学医学部附属病院 病理部)

主 題3： 組織切片自動作成装置の使用経験

講 師3： 阿比留 仁(京都大学医学部 解剖センター)

主 題4： 自動免疫染色装置の使用経験

講 師4： 野田 みゆき(京都市立病院)

参加数： 19名(うち京臨技のみ3名、賛助会員3名、非会員1名)

報告者： 江口 光徳(宇治徳洲会病院)

以下、講演内容など

今回の研修会は、病理標本作製における自動化機器についてをテーマに行われました。これまで病理分野の技術は、やや「匠」の世界のような感じで先輩から後輩へ技術が受け継がれていく感じでした。標本作製技術は施設ごとにやり方が違ったり、独特のやり方をしていたりなどなかなか標準化は難しい分野でありました。今回はその病理分野の自動化機器の歴史や現在開発されている技術、実際に使用されている施設からの経験などを話していただき非常に参考になりました。こういう機器を使用することにより標本作製の標準化が少しできるように思いますが、機械が故障など不具合が起こった際に、用手法でも対応できるように技術の継承は必要であろうと思われました。質疑応答も活発に行われて、非常に良い研修会であったと思います。